

# サントリー東北サンさんプロジェクト みらいチャレンジプログラム採択事業概要

一般社団法人サスティナビリティセンター

事業名
観光×学術が生むサスティナブルなまちづくりプロジェクト
事業全体の実施期間
開始 2021年7月 終了 2022年6月
事業の背景及び必要性
<p>東日本大震災から10年が経過し、被災地は復興需要の終焉という激変にさらされている。この間、各地域がそれぞれに新たなまちづくりに取り組み、南三陸町においては、地域資源を活かした持続可能な循環型のまちづくりを進めてきた。その成果は、住民の分別した生ゴミから田畑を肥やす液肥とエネルギーが産生されるバイオマスインフラの定着や、山林のFSC®認証とカキ養殖のASC認証という、持続可能な1次産業への挑戦として結実した。また、志津川湾のラムサール条約湿地への登録は、漁業が盛んでありながら、生物多様性も豊かである里海の姿を印象づけた。</p> <p>しかしながら、地域の人々はいまだ持続可能な未来を手に入れた実感はなく、上記の先進的な取り組みも主流化するには至っていない。一方で、地域の経済活動がシュリンクする不安は募り、このまま地域が廃れていく様を眺めるのか、あるいは、人口減少が進もうと活力のあるまちづくりをして、地域の誇りと持続可能性を高めていくのかを、今まさに突きつけられている。</p> <p>南三陸で上記のまちづくりが進んだ要因は、震災前から町立自然環境活用センターというレジデント型研究機関が存在し、レジデント型研究者やトランスレーターが活動していたことと無縁ではない。里海や里山の生態系から恩恵を受け続けるために必要な仕組みを、人々の暮らしや産業に根付かせるため、様々な調査や人材育成活動、交流が行われてきた。</p> <p>ポスト震災に向けた次の10年は、南三陸の「いのちめぐるまち」づくりをさらに深化させ、ここに来れば、誰でも環境・社会・経済にまたがる課題解決の学びに触れられる町になることこそ、持続可能な地域への道がある。</p> <p>そしてこの町の取り組みが起点となり、ここで学んだ人材が、持続可能な地域の仕組みや思想を世界中に伝えるようになることこそが、震災で受けた数多くの支援への恩返しになると考えている。</p>
事業の目的
南三陸の自然や里海・里山の取り組みを題材にした研究と学びを生む観光を掛け合わせて、「サスティナビリティを学ぶなら南三陸」というブランド構築を図り、環境保全と経済循環を両立させる持続可能なまちづくりを目指す。
受益者とその数
町内人口12,000人、学びのプログラム参加者3,000人/年
成果目標
<ul style="list-style-type: none"><li>「サスティナブルな学びの町」への取り組みが町内外で共有され、事業者の活動に反映される。</li><li>次世代が持続可能な里海里山の活動に興味をもち、積極的に参加する（里海カンファレンス参加学生10名以上）</li><li>南三陸学会が立ち上がり、会員の募集が開始される。（初年度目標：100人）</li></ul>
実施体制
本年6月に立ち上げを予定している里海里山ウィークス実行委員会とは、期間中の協賛事業者への取り組み周知や、里海カンファレンス（南三陸学会）の宣伝について協力体制をつくる。南三陸町（商工観光課・農林水産課・自然環境活用センター）とも協働を進め、町内の合意形成や、里海里山研究と教育の推進を図る。その他、学会活動に関し、大学等との連携をはかる。

## 事業内容

南三陸では、震災前からレジデント型研究者が志津川湾の生物多様性について研究を行い、数多くの研究者が訪れる場所となっていた。震災後は、コミュニティ支援などで社会科学等のより多様な研究者も入っている。また、町内の生ゴミ循環システムの稼働やFSC®とASCのダブル認証など、官民が協働した循環型で先進的な取り組みが興り、志津川湾がラムサール条約登録湿地になるなど、自然と共生するまちづくりが一気に進んだ。

一方で、復興需要が終わり、建設業や宿泊・飲食業など地域経済への影響が深刻化するのを目に見えており、東日本大震災の記憶も風化する中、新たなまちづくりの目標を地域が共有する必要がある。

そこで、これまで地域で磨いてきた学びの観光をさらに深化させ、学術と観光をつないで「サステナブルな社会を学ぶなら南三陸」というブランドを確立し、内外に学びを広げることで地域の持続可能性をも高める観光へとシフトさせる。

本事業は3つのパートから成り、①南三陸で行われてきた自然科学や社会科学の研究成果を「南三陸学会」を立ち上げることにより集約すること、②「里海・里山の取り組みから学ぶサステナブルな社会」をテーマにした新たな観光イベント「里海里山ウィークス」を開催して地域経済をまわしつつ、地域の事業者の意識変革をすすめ、外からサステナビリティに共感する人々を呼び込むこと、③初年度は、全国の里海づくり関係者があつまる「里海カンファレンス」の開催に合わせて、①及び②の事業の旗揚げを行い、次年度以降の南三陸学会大会の開催へとつなげる計画である。

カンファレンスや学会では、地域の高校生などにも積極的に発表の機会を提供することで、持続可能な社会をつくる地域の人材育成を進める。

このうち、みらいチャレンジプログラムでは、①の南三陸学会の立ち上げと周知、会員募集に必要な仕組みの整備を行い、また、③の里海カンファレンスの一部の企画として、学会につながる内容を盛り込むとともに、特に若い世代に興味をもって参加してもらうための企画を大学生インターンが中心となって検討する。

なお、②の里海里山ウィークスでは、協賛事業者に持続可能な社会への取り組みを一つでも入れた協賛メニューやツアーを企画してもらうことで、地域の経済活動とリンクした持続可能な地域づくりへの参加者を増やす。

これらの取り組みを町内外の様々な組織・団体（南三陸町、町自然環境活用センター、JF みやぎ、南三陸森林管理協議会、（一社）南三陸町観光協会、南三陸ワイナリー（株）、南三陸さんさん商店街、（一社）南三陸研修センター、アマタ（株）、（特活）里海づくり研究会議、東北大学、慶応大学、大学生インターン、など）を巻き込んで進めることで、新たなまちづくりの姿の共有と内発的な推進を図る。

## スケジュール

2021年4月 南三陸学会立ち上げに関する検討開始、里海里山ウィークス企画始動

2021年6月 里海里山ウィークス実行委員会立ち上げ、里海カンファレンス実施計画策定

2021年7月 南三陸学会立ち上げ準備

2021年8月 里海カンファレンス、里海里山ウィークス宣伝開始

2021年10月 南三陸学会ホームページ設置、次年度計画策定、里海里山ウィークス開催

2021年11月 里海カンファレンス開催、南三陸学会お披露目、学会員会員募集開始

2022年1月 学会員サービスとしての返礼品発送開始、里海里山ウィークス次年度計画検討

2022年2月 南三陸学会大会実行計画策定・各種手配開始

終了後の展望・波及について

本事業は、里海カンファレンスの開催に合わせて南三陸学会の周知・会員募集を行い、学会大会を毎年里海里山ウィークスの期間中に開催していくことで、持続可能な社会づくりに寄与する里海里山や地域コミュニティの研究知見を集約・周知していく。また、研究＝知見は、有料の人材育成プログラムに再構築して提供し、あるいは事業者への取り組みに反映させていくことで、地域の環境保全と経済循環の両立へとつなげていく。

学会会員からは、会費を負担頂くが、その一部は域特産品として還元される仕組みをつくり会員の誘致につなげる。さらに、企業版ふるさと納税の活用やクラウドファンディングの導入も検討しつつ、持続可能な運営をはかる。

最終的には、本取り組みをさらに発展させ、持続可能な社会をつくる人材育成を目的とした高等教育機関（専門職大学等）の誘致・設立を実現することで、環境保全と経済循環、地域コミュニティの課題に立ち向かえるまちづくりを目指す。